

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

2023 年 4 月 21 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 太田 吉泰

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	太田 吉泰	経営	H0301059
	②	齋藤 諄	福祉	H0801058
	③	笹野 武則	経営	H0901035
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	福祉型障害児入所施設(旧知的障害児施設)			
評価対象事業所名称	友愛学園児童部		指定番号	1352800013
事業所連絡先	〒	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木2-107		
	TEL	0428-74-5453		
事業所代表者氏名	施設長 渡部 光行			
契約日	2022 年 7 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022 年 8 月 27 日			
利用者調査結果報告日	2022 年 11 月 25 日			
自己評価の調査票配付日	2022 年 7 月 15 日			
自己評価結果報告日	2022 年 11 月 25 日			
訪問調査日	2022 年 12 月 2 日			
評価合議日	2023 年 1 月 18 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査(保護者)はアンケート方式で実施し、利用者本人に関しては場面観察方式で実施しました。職員の自己評価は、職員会議で評価手法等について説明を行い、実施しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2023 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名 渡部 光行

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)子どもたちの最善の利益を考える（権利擁護） 2)子どもたちの健やかな成長を支える（信頼感・安心感・満足感） 3)日々の観察から肯定的な子ども像を捉える（正しい特性理解・潜在能力の助長） 4)保護者を共同の援助者とする（学び合う意識） 5)子どもたちが望む自立的な大人の生活実現を支える（社会への移行支援）</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> * 誠実であること。 * 主体性を持って考え、判断し、行動し、学ぼうという姿勢の人材。 * 組織の一員として最低限の報・連・相ができ、周囲の意見を傾聴、保護者との協同による児童の育み、独善的な言動に走らず謙虚に組織の中で能力を表出できる人材。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 国民の税金により仕事をしている以上、社会に向けて自分の仕事の説明責任が伴うこと、生命を預かっていることの重さを常に意識してほしい。 * そして、正しい倫理観の下、支援を必要としている人とその家族に寄り添い支えていく気概を持ち続けてほしい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル①	芸術家とのワークショップを通じて、児童の個性や感性を引き出している	
内容①	オンライン方式であるが、引き続き「芸術家と子どもたちのワークショップ」を開催している。対面とは違う雰囲気だが、児童一人ひとりの個性や感性が十二分に引き出され、児童も自信と達成感を感じている様子が感じられる。外部の大人と接する良い機会にもなっている。3月卒業して退所する児童がWSのスタッフから「卒業おめでとう」と声をかけてもらい、嬉しそうにしている場面もあった。WSに参加していない児童もスタッフに挨拶するなど外部の人との関係性ができていることを感じさせる。職員も児童の新しい面に気づき、支援のヒントを得ている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル②	コロナ禍の中、児童が楽しみ、いろいろなことを体験できるよう工夫して取り組んでいる	
内容②	「コロナ」の影響で外出先を制限しなくてはならない中、週末は近くのコンビニ等に出かけて、児童にお金の使い方やお店でのマナーを学ぶ機会を設けている。2回目のワクチン接種後は市内の店への外出も認めている。余暇支援では、土・日を午前・午後の4つの時間帯に分けてグループ外出を実施している。個別外出や遊園施設への外出は中止中で、その代替として園内でできるイベント(例えば、園庭での花火大会など)を企画して実施している。いろいろな制約がある中で、児童が楽しみながらいろいろなことを体験できるよう職員が工夫して取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	児童の成長と自立を目指して、学校や児童相談所など関係機関と連携して取り組んでいる
	内容	児童の通っている学校をはじめ関係機関と連携して児童の成長と自立を目指して支援を行っている。学校とは、児童の学業や生活について日常的に連携を図っているが、特に進路指導については情報交換、個別カンファレンスを重ねて支援を行っている。進路や家族対応については児童相談所や援護の実施機関とも連携を図っている。個別案件では相談支援事業所との連携も必要となり、児童の精神的なケアには医療機関との連携も欠かせない。進路指導には今年からコーディネーターを配置して学校など関係機関と連携して取り組んでいる。
2	タイトル	個別支援計画を「自立支援計画」と読み替え、「生活チェックシート」で課題を明らかにして自立に向けて支援を行っている
	内容	児童部では個別支援計画を「自立支援計画」と読み替えている。自立を目指すことを意識するよう、課題の中でも自立をキーワードにしている。児童の成長の様子を評価するツールとして「生活チェックシート」を作成しているが基本的な生活習慣、家事、社会性、コミュニケーション、行動などについて130の項目を立ててチェックし課題を明らかにして支援を行っている。また、自立のためには、自分の考えや意見をきちんと表明できることが必要と考え、第三者委員と話し合う場を設けて、意見表明の機会を提供している。
3	タイトル	児童がいつでも悩み事を相談できる環境をつくり、職員全体で悩みを受け止め、支援に取り組んでいる
	内容	児童はその成育歴からいろいろな問題を抱えている。児童部では、担当職員を中心に児童がいつでも悩み事を相談できるように、医務室や事務室を開放している。児童によって相談相手が看護師や施設長というケースもある。医務室には児童が集まり、「けんかはしない」というルールを守って一緒に工作をして楽しんでいる（その作品が玄関ホールに展示されている）。看護師は児童の良き相談役となっている。職員全体で情報を共有して、児童の悩みを受け止めて支援を行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	引き続き、施設・設備のメンテナンスを行い、過ごしやすい環境を維持することが望まれる
	内容	施設の建替えは具体化に向けて進んでいるが、実現するのは数年先になる見込みである。現在の施設・設備はかなり老朽化が進んでおり、毎年補修工事等を実施するなど、メンテナンスを行っているが、これからも継続していく必要がある。児童の生活の場として、できるだけ過ごしやすい環境を維持するために必要な対策を講じることが望まれる。
2	タイトル	身の回りのことについては、職員が気づく力、想像力を身につけて支援に取り組むことが望まれる
	内容	身の回りの支援にはまだ課題が多いように思われる。衣類などは周りの者が教えたり、注意しないと児童は気がつかないことも多く、職員が適切に助言することが必要と思われる。支援にあたっては、季節による衣替え、サイズを選ぶ、周囲の目やTPOなどを意識するなどが自立には必要なこととしてアプローチすることが求められる。衣類の整理や補充にも、もう少し気配りがあればという面もあるようなので、職員が気づく力、想像力を身につけて支援に取り組むことが望まれる。
3	タイトル	職務能力基準（キャリアパス）と人材育成計画の連動性を図りながら、人材の育成に積極的に取り組んでいくことが期待される
	内容	職員研修計画を策定し、職員の育成に取り組んでいる。児童部は、まだ経験年数が浅い職員も多く、OJTに力を入れて取り組んでいる。また、主任・副主任研修を行い、次代を担う人材の育成にも取り組んでいる。法人全体としても、昨年実施した人事評価制度において職務能力基準を明示して、人材育成に取り組むとしている。今後、職務能力基準（キャリアパス）と人材育成計画の連動性を図りながら、人材の育成に積極的に取り組んでいくことが期待される。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-2	利用者の主体性を尊重し、利用中の生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル①	本人のお気に入りのものを持参してもらい、楽しく過ごせるよう支援を行っています	
内容①	利用者や家族の意向を丁寧に聞いて、家族の思いに寄り添った支援を行うよう心がけています。できるだけ家庭と同じように過ごせるように本人のお気に入りのものを持参してもらい、利用者のペースに合わせて支援を行うよう努めています。居室は短期入所専用の個室を用意し、ひとりの空間を確保して利用者が楽しく過ごせるよう支援を行っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル②	友愛学園のホームページやパンフレットで短期入所の情報を提供しています	
内容②	短期入所は「併設・空床型」で、定員は4人です。利用希望者には、友愛学園(法人)のホームページ、児童部のパンフレットで事業内容を案内しています。また、青梅市社会福祉協議会の「地域資源マップ:笑顔で子育て」にも紹介記事が掲載されています。地域の相談支援事業所でも児童部の短期入所の利用については相談ができるようにしています。利用希望者の問い合わせや相談には、短期入所の担当職員が対応しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	様々なニーズに応じて、在宅生活を支えるという地域資源としての役割を果たすことを大切にしています
	内容	短期入所のニーズには、家族のレスパイト、慶事等での外出、将来に備えた集団生活の訓練などのほか、弔事の際の急な外出や緊急一時保護など、いろいろありますが、児童部では様々なニーズに応じて、在宅生活を支えるという地域資源としての役割を果たすことを大切にしています。受入れ先のない困難なケースにも極力体制を整えて対応しています。コロナ禍の中でも、通常の利用は中止せざるを得ない時でも緊急一時保護と入所体験は受入れて地域資源としての役割を果たしています。
2	タイトル	利用を開始・終了する時間は利用者の都合に合わせるなど、利用者・家族の希望に柔軟に対応して支援を行っています
	内容	利用者や家族の状況や希望に柔軟に対応して支援を行っています。利用を始める時間・利用を終了する時間には特段の定めを設けていません。利用者や家族の都合に合わせて、いつでも対応しています。利用者の通っている学校や通所施設、放課後等デイサービスなどへの送迎も行って、便宜を図っています。利用中、楽しく過ごせるよう、利用者がお気に入りのものを持参することも認めています。
3	タイトル	
	内容	
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	成人の利用者の日中活動について、対策を検討することが望まれます
	内容	現在、短期入所の利用契約者は50人程度です。児童部はその名称が示すように児童施設ですが、短期入所の利用者の内の一定数は成人となっています。基本の対象が児童で、その多くは日中は学校に行っているため、日中活動のメニューは限られているのが現状です。職員体制の問題もあると思われませんが、改善対策の検討が望まれます。
2	タイトル	今後も利用者の生活の場、活動の場として、できるだけ過ごしやすい環境を維持することが望まれます
	内容	施設の建替えに向けて準備が進んでいますが、実現までにはもう少し時間を要するとのことです。老朽化した施設・設備のメンテナンスを継続して行っていますが、今後も利用者の生活の場、活動の場として、できるだけ過ごしやすい環境を維持することが望まれます。
3	タイトル	
	内容	